

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	74	大学等名	東海大学短期大学部
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、社会的通用性のある専門職人材育成を行うことを目指して、e-ポートフォリオの活用を起点とする5つのプログラムを展開し、学修環境を整備した結果、卒業時に資質能力の形成傾向が確認され、また、開発されたディプロマ・サプリメントにより、卒業時の学修成果の修得状況を可視化して示すことができるようになった。本取組を通してエビデンスに基づいたカリキュラム・マネジメントを実現できるようになり、学位プログラム全体の見直しに資することができるようになったことから、大学全体としての改革が加速されたことは十分評価できる。当該校は令和2年度をもって閉校することが決定しているが、今回得られた知見やノウハウは令和4年度開設予定の系列大学新学部へ継承・発展されることが予定されていることから、新しい環境での活用が期待される。

事業の具体的な取組の進捗状況については、本事業を推進するにあたって3つのポリシーの見直しを行い、それに基づく教育活動の実施や卒業段階での学修成果の評価システムの構築、ディプロマ・サプリメントの開発等、各活動を有機的に関連させて取組を確実に進捗させていることは評価できる。目標の達成状況に関しては、補助期間中にごく一部の指標に未達成があったものの、最終段階ではほぼ全ての指標で目標が達成され、多くの大学等で実現に苦慮している「学生の授業外学修時間」も問題なく達成しており、十分に評価できる。中間評価及びフォローアップで指摘された課題に対しても、1つ1つに真摯かつ丁寧に対応し、それぞれに対策も施されており、評価できる。一方で、補助期間2年度目以降もシステム保守や評価アセスメントとしてのPROG実施経費が定常的に支出されており、今後この取組を継続する際には検討が必要である。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長を長とした「AP推進委員会」を設置し、全体進行の進捗状況が定期的に確認され、「AP評価委員会」で評価や助言が行われるとともに、既存の学内委員会とも連携して本取組を推進しており評価できる。加えて「AP評価委員会」には外部有識者も参加し、3つのポリシーそれぞれの機能に応じた評価活動を行っていることも評価できる。実施されている活動それぞれについて、補助期間終了後の取組内容や体制が立案されており、今後も自律的に事業が継続されることが期待できる。令和2年度をもって閉校するため、具体的な予算措置は明示されていないものの、令和4年度に開設が予定されている後継の新学部へ引き継がれるべく各取組事項は設置申請書類に記載されることとなっており、予算措置についても大学本部との合意が取れているとのことから、今回の一連の取組が新学部で生かされることが期待される。

事業成果の普及については、やや内向きな対応が挙げられているようにも見受けられたが、令和2年度に閉校が予定されているため、やむを得ない部分もあると考える。今回の取組で得られた知見が後継の新学部での活動に生かされることが望まれる。